

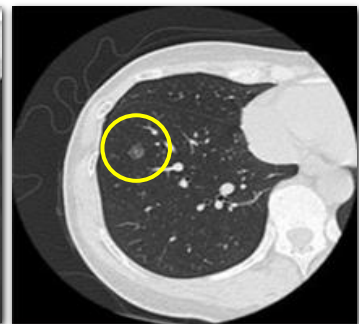
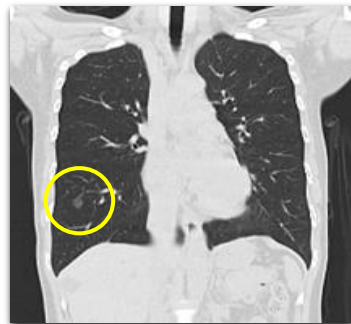
当院では80列マルチスライスCTを導入して検査にあたっています。

最新の被ばく低減機能(最大で75%の被ばく低減効果)を発揮することにより、画質を維持したまま、被ばく量を抑えています。現在、一般的に行われている肺がんの検診は胸部単純レントゲン検査や喀痰細胞診が一般的ですが、ある程度の大きさになるまで写りにくく、初期のがんを見つけるには限界があります。

低線量肺がんCT検査では1cm以下の肺がんを発見することも可能です。低線量肺がんCT検査による肺がん発見率は、胸部単純レントゲン検査に比べて10倍程度高く、また発見された肺がんに占める早期がんの比率も高く、この検査で発見された肺がんの治療成績は、とても良好であることが知られています。



胸部単純レントゲン検査

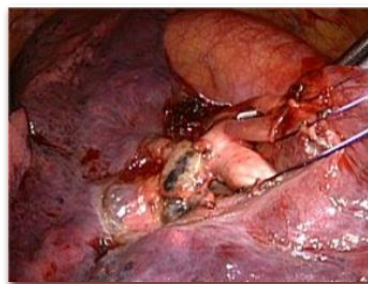
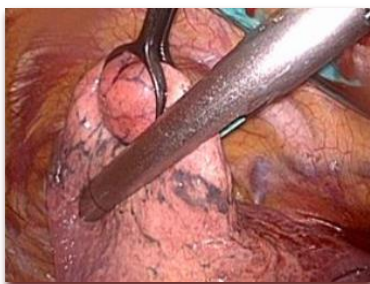


低線量肺がんCT検査

【早期肺がんに対する治療の実際 - 胸腔鏡下手術 -】

①胸腔鏡下手術

- 全身麻酔下で手術を行います。
- 胸腔鏡下手術(VATS: Video Assisted Thoracic Surgery): 体に小さく開けた創からの胸腔鏡挿入口と4~6cmの手術操作口)で手術を行います。

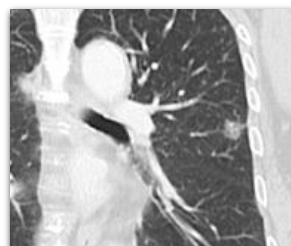


②肺ラジオ波焼灼術(RFA) ※自由診療

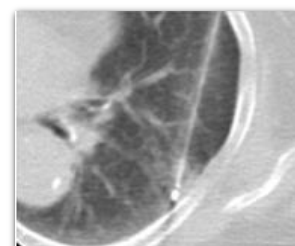
肺ラジオ波焼灼術(RFA)は低侵襲な治療法であり、手術不能患者においても適応可能な手技です。当院では2009年にRFAによる治療を開始し、2014年8月までにのべ50人に肺RFA療法を実施しています。



ラジオ波電極針



肺RFA施行前CT



肺RFA施行

当院では、肺がん診療に携わる一貫した様々な治療が可能となっています。

肺がん治療についてお悩みの方は、セカンドオピニオンも行っておりますので外来にてご相談下さい。